

編集後記

瀬戸内海にはたくさんの島がありますが、私はその中のある島で育ちました。春にはみかんの花の香りが島中に漂い、秋深くなると山がオレンジに色づくほどのみかんの島です。さて、そんな島に数年前、イノシシが海を泳いでたどり着いたらしく、島では大変な騒動が続いています。みかん以外にも自分たちで食べる野菜や果物をたくさん育てていますが、イノシシにより次から次へと食い荒らされています。畑を網で囲っても土を掘って入り込み、電線鉄線を張り巡らせても助走をつけて飛び越える知能と体力を有する手ごわい敵です。中には、みかんの皮をむいて中身だけ食べる器用なイノシシもいるといううわさも。農水省のデータを見ると、イノシシによる農作物の被害総額が獣の中でもっとも大きく、シカ、サルと続きます。特に西日本中心にイノシシ対策に苦勞しているようです。年2回、一度に5匹ほど出産するイノシシは島でどんどん増殖しています。本来臆病な性格のイノシシですが、すでにひとを恐れなく

なっているとのこと。農作業中、ふと顔を上げると、目の前でイノシシ一家がこちらを見ていたとの話も聞きました。山里であれば山奥に追い返す策が考えられますが、離島では捕獲するしかすべがなく、島民自身も資格を取って罠を仕掛けているのですが、賢いイノシシはなかなか捕獲されません。実は、まもなく科研費申請締め切り日。プラズマ・核融合研究をイノシシ対策に応用できないか……、大気圧プラズマ放電を利用した革新的イノシシ撃退法、挑戦的萌芽研究でどうでしょう。

ところで、みかんを縦に半分に切ったことはあるでしょうか。私にはその断面がトカマク型核融合炉心に見えるのです。そろそろ肌寒くなり、みかんがおいしい季節です。スーパーに行かれた際には皆さんも是非みかんを手にとってみてはいかがでしょう。ずっしりとした形のよいみかんを縦に切ると、白いブランケットが高密度果肉を包んだD型ポロイダル断面が現れるはずですよ。(片山一成)

プラズマ・核融合学会役員

会 長	小川 雄一	副 会 長	斧 高一	二宮 博正	常務理事	西村 新 (総務委員長)
理 事	疇地 宏 (企画委員長)		石原 修		伊藤 早苗	
	上杉 喜彦		甲斐 俊也		小森 彰夫	
	坂本 慶司 (広報委員長)		笹尾眞實子 (プログラム委員長)		清水 克祐 (財務委員長)	
	永津 雅章		林 康明 (出版委員長)		堀池 寛 (広告委員長)	
	山崎 耕造 (編集委員長)		米田 仁紀			
監 事	飯尾 俊二		中澤 一郎			

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディター：山崎耕造(名大)

エディター：安藤晃(東北大)、坂本瑞樹(筑波大)、中村祐司(京大)、村上匡且(阪大)、室賀健夫(核融合研)、佐々木浩一(北大)

編集委員：秋山毅志(核融合研)、伊藤剛仁(阪大)、今井 誠(京大)、大原 渡(山口大)、岡本 敦(東北大)、片山一成(九大)、菊池崇志(長岡技科大)、熊谷 晃(株)ジェイ・イー・ティー、古賀麻由子(阪大)、後藤拓也(核融合研)、小林進二(京大)、近藤正聡(東海大)、佐竹真介(核融合研)、佐藤正泰(原子力機構)、三瓶明希夫(京都工繊大)、柴垣寛治(鈴鹿高専)、杉山貴彦(名大)、曾我之泰(金沢大)、田代真一(阪大)、田中将裕(核融合研)、中村龍史(原子力機構)、廣瀬貴規(原子力機構)、福山隆雄(愛媛大)、藤澤彰英(九大)、村中崇信(宇宙航空研究開発機構)、山家清之(新潟大)、吉沼幹朗(核融合研)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第87巻第11号

編集・発行

〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階

社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485

E-mail: plasma@jsof.or.jp URL: http://www.jsof.or.jp/ 定価1,365円(本体1,300円)

印刷 株式会社荒川印刷

2011年(平成23年)11月25日

本誌に掲載された寄稿等の著作権は(社)プラズマ・核融合学会が所有しています。

編集委員会開催日について 当学会誌の編集委員会は原則として、毎月第1火曜日に開かれています。但し、都合により変更になる場合があります。